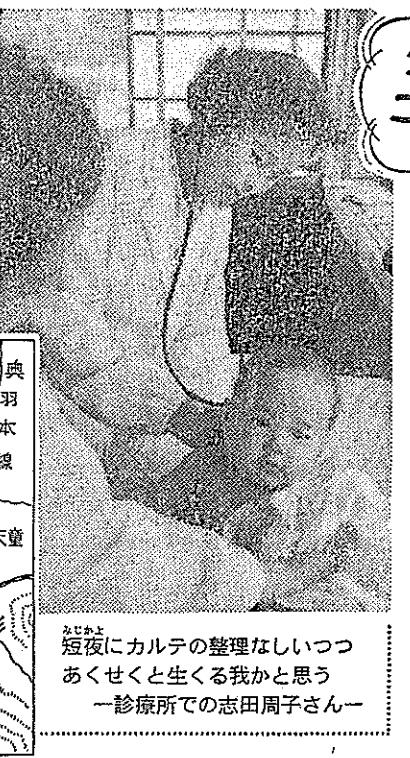


ここに
こんな人が

辺地に捧げた女医の青春

村を守つて24年の志田周子さん



「若いころは往診先に泊るのがいやでした。相手の家人に『たとえ夜中になつても、必ず送り返してね』と条件つきで往診したものですね」

志田さんはいつた。

「でも私も年とつたせいじょうか。近ごろは無理をうのが氣の毒みたいで、往診先に泊ることもあるんですの」

贈つて安心
受けて安心

文明堂のカステラ

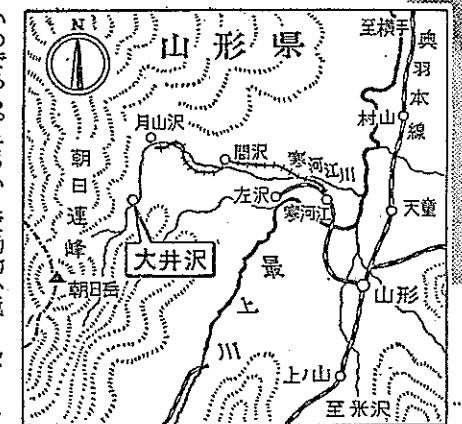
長崎・博多・神戸・大阪・横浜・東京



登録商標

山形県西村山郡西川町大井沢。
この部落を訪れて、記者が最初に出くわした相手がタヌキだった。いや、正確にいえばタヌキづれの村人である。なんでもこのタヌキは、当日裏山で生け放つたんだとか。首にナワをかけられ、バ道をそりのそりと引立てられて来た。

なにしろ朝日連峰の山ふところにあるここ大井沢部落は、寒河江川の上流にあたり、名だたる邊地である。冬は雪が四枚も積り、春先ともなると子づれのクマが山菜めあてに山を下ってくる。タヌキなどは、大して珍しくもな



短夜にカルテの整理なしいつつ
あくせくと生くる我かと思う
一診療所での志田周子さん

周子さんが住みついでいる山のことでから、一日がかりの往診というのも珍しくない。今でも大井沢から十八ヶ所はなれた水滸部落まで医者がないのである。間近にせまつた山を指しながら、

「ほら、その時が一ぱん高く見えるでしょ。ところが、あそこまでのぼると、その先にもっと高いのが見えます。『今度こそ』とがんばつてのぼると、そのまた先にさらに高いのがある。ほんとうにさういふのである。そういう動物小説のことだけだった。

「志田さんの診療所から一ぱんはなれた隣部落の富野に肋膜患者がいた。志田さんは吹雪をおかして往診に向つたのである。が、吹雪は

この大井沢に、独身の女医志田さんともう一人別の部落の反対側にあるもう一人別の家にたどりつけず、空しく引きあがたのだった。まだ、こんなこともある。これ

も大雪の日、村のともえさんのお母さんが腹痛をおこした。往診をたのまれた志田さんは、朝十時半に診療所をスタートした。ところが、着いてみると相手は、ピンピ

ンしている。腹痛を起したのは、胃ケインレンといふ持病がバカに多かつた。決まって春先、秋口におこる。ところがよく調べてみると、ほとんど蛔虫が原因と分った。胆道あたりにもぐりこんで、いたずらするのだ。体は疲れるし、消化不良でもおこすと、とたんに悪化する。寄生虫のことを頭におかなといと辺地の医者はつとまらぬと知つた。が、当の村人は蛔虫うじやうじやにも気づかず、志田さんを「虫のことしか分らぬ虫医者だ」となどとカゲロをきいた。いや、今日でさと三百二十人の学童中、実際に二百八十八人が蛔虫をわかっているという村なのにな。

それよりも「西洋くせえ医者娘」の出現は、村人をおどろかせた。ワンピースで外出すると、「ハダカで歩いてる」といわれた。スキーブーンで雪の中を歩くと、子供たちが追いかけて来て、顔をのぞきこみながらいた。

「へえ、女だ。やっぱり女だ」

若い志田さんの胸をゆきよつたのは村の老人たちだ。彼らはボロ

ボロ涙を流しながら、「これで、安心して死ねる。死んでから雪の中を引っぱり回される

「村に医者がほしい」

大井沢は町村合併前は大井沢村といつた。平将門の家来志田彌正が、東京女子医専に進んだ。卒業後は次郎さん、女では周子さんだつた。彼女は山形高女から、さらに東京女子医専に進んだ。卒業後は医事院につとめていたが、「お願いだ。卒業したら三年だけ舞台に「かもしか学園」を書いて

心した。

「三年だけ目をつぶって田舎にいこう。三年たてば、また東京の病院に帰れるんだ」

たるものだ。「私は平ちやらだわ。たつた三年のことじやない」

と志田さんが笑つた。無医村で

いさつにいくと、

「あなた、産科をよく勉強してないでしよう? 辺地へ行つたら困りますよ? といわれた。

が、志田さんは胸の中できみよ

いた。

く。すると村人は、

「さういふ

こと

だ。

か現在二百四十戸の部落で半数近くが志田姓である。

女医・志田周子さんも大井沢の出身だ。お父さんの故郷次郎氏は

教育者で、大井沢村長をつとめた人。彼女は、その十人きょうだいの長女に生れた。この父娘にも無医村の苦惱は骨身に徹していた。なんでも弟の惣次郎さんが四歳でハシカのあと重い肺炎をおこしたことがある。はるばる二十八ヶ所離れた左派まで医者の往診をあおぎに行った。文字通り三拝九拜の末、ようやく二回だけ往診してくれた。そして「医者が来るそうな」とウワサをききつけて、村の病人という病人は、自分の子供を医者に仕立てるだけだった。

辺地のことである。村で初めて中等学校に進んだのは「男では莊次郎さん、女では周子さん」だつた。彼女は山形高女から、さらに東京女子医専に進んだ。卒業後は医事院につとめていたが、「お願いだ。卒業したら三年だけ舞台に「かもしか学園」を書いて

いふのである。そういう動物小説のことだけだった。志田さんは、自分の父親の切望をより切ら……」

といふお父さんの切望をより切ら……」

ることはできなかつた。彼女は決心した。

「三年だけ目をつぶって田舎にいこう。三年たてば、また東京の病院に帰れるんだ」

たものだ。

「私は平ちやらだわ。たつた三年のことじやない」

と志田さんが笑つた。無医村で

いさつにいくと、

「あなた、産科をよく勉強してないでしよう? 辺地へ行つたら困

りますよ? といわれた。

が、志田さんは胸の中できみよ

いた。

く。すると村人は、

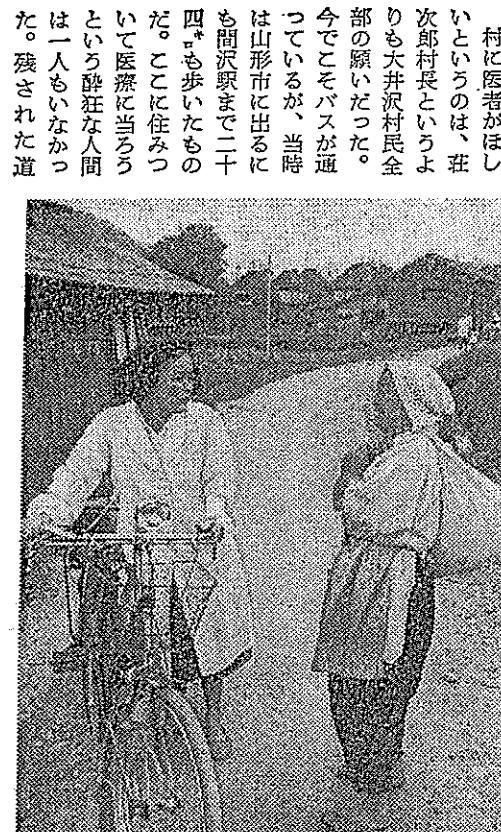
「さういふ

こと

だ。

か現在二百四十戸の部落で半数近くが志田姓である。

女医・志田周子さんも大井沢の出身だ。お父さんの故郷次郎氏は



深夜の往診三度続きぬ川千鳥
寒河江川辺にちぢと鳴き過ぐ
一自転車で往診の帰途一

いといふのは、莊次郎長といふよ。大井沢村民全部の願いだった。今でこそバスが通つてゐるが、当時は山形市に出るにも間沢駅まで二十キロ歩いたものだ。ここに住みついて医療に当たるといふ醉狂な人間は一人もいなかつた。残された道

の長い道

おひげそりには・安全で経済的な…

刃の厚さ・両刃(赤面) 0.13mm
(青面) 0.10mm (緑面) 0.08mm
(銀面-スティンレス) 0.12mm
片刃0.25mm

フェーザー剃刃

若い志田さんの胸をゆきよつたのは村の老人たちだ。彼らはボロボロ涙を流しながら、「これで、安心して死ねる。死んでから雪の中を引っぱり回される

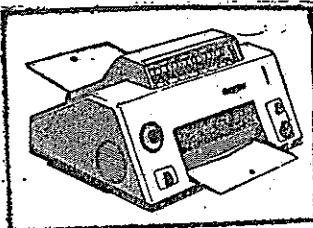


スープマンが新入社！

コピスター「800」はオフィスでいちばんの働き手。書類や図面の写しき鮮明に、ゼッタイ間違わず、しかもフルスピードでこれコストの安い薄物感光紙が使え、両面原稿や不透明な原稿でもOK、高性能の画期的な複写機です。

コピスター800

340型(A-3判) 460(A-2判)



三本工業株式会社
東京支店 東京都千代田区西神田2丁目1番地
TEL 03-4135-301-4633
神戸・広島・福岡

町議と短歌と由里ちゃん

た。今、私がこの村では必要らしい。村のために、なんて大げさなものじゃないが、やっぱり私は老人と子供を守ります。それが私の結婚、だとあきらめますわ」

今、寒河江市に引退している佐藤司氏は「残念だと思ったが、仕方がなかった。志田さんを勇ましくなった。志田さんが苦笑した。

お母さんが亡くなつた。戦争がおこつた。たよりの弟惣次郎さんが應召し、比島で戦死した。たつた一人の医者として、また大勢の弟妹の母がわりとして、志田さんはもう村を脱出することはできなくなつた。

「父には、親の権限で命令されたことは一度もありません。いつもなつとくすぐで、結果としては一生を誘導されたみたいですね」と志田さんが苦笑した。

「家のことも一戻落つて、さて自分がことを考えよろとすると何

かおこつてくる。里まわりといふのはたぶんやのう」といつた。無医村では死んで医者の死亡診断書がもらえず、従つて葬式も出せない。冬は死体をソリに乗せて先の左沢の医者のもとで引つぱつて死で診断書をもらひのだ。四歳の雪ではもちろん馬ソリもスキーモだめ。飢餓縁者七、八人が道を踏みならし、そのあとをこれも七、八人ソリを引いて一日がかりで町までいく。急病人の場合も同様だ。志田さんもソリにつきそつて、何度も病人を町にはこんだ。約束の三年は、まだたく間にすぎた。が、後がわりはいなかつた。山険の部落で苦しんでいる病人たちのことを思つて、「三年つたから」とはいい出せなかつた。莊次郎村長も、そして周子さんも……。

お母さんが亡くなつた。戦争がおこつた。たよりの弟惣次郎さんが應召し、比島で戦死した。たつた一人の医者として、また大勢の弟妹の母がわりとして、志田さんはもう村を脱出することはできなくなつた。

かおこつてくる。里まわりといふのはたぶんやのう」といつた。無医村では死んで医者の死亡診断書がもらえず、従つて葬式も出せない。冬は死体をソリに乗せて先の左沢の医者のもとで引つぱつて死で診断書をもらひのだ。四歳の雪ではもちろん馬ソリもスキーモだめ。飢餓縁者七、八人が道を踏みならし、そのあとをこれも七、八人ソリを引いて一日がかりで町までいく。急病人の場合も同様だ。志田さんもソリにつきそつて、何度も病人を町にはこんだ。約束の三年は、まだたく間にすぎた。が、後がわりはいなかつた。山険の部落で苦しんでいる病人たちのことを思つて、「三年つたから」とはいい出せなかつた。莊次郎村長も、そして周子さんも……。

かおこつてくる。里まわりといふのはたぶんやのう」といつた。無医村では死んで医者の死亡診断書がもらえず、従つて葬式も出せない。冬は死体をソリに乗せて先の左沢の医者のもとで引つぱつて死で診断書をもらひのだ。四歳の雪ではもちろん馬ソリもスキーモだめ。飢餓縁者七、八人が道を踏みならし、そのあとをこれも七、八人ソリを引いて一日がかりで町までいく。急病人の場合も同様だ。志田さんもソリにつきそつて、何度も病人を町にはこんだ。約束の三年は、まだたく間にすぎた。が、後がわりはいなかつた。山険の部落で苦しんでいる病人たちのことを思つて、「三年つたから」とはいい出せなかつた。莊次郎村長も、そして周子さんも……。

かおこつてくる。里まわりといふのはたぶんやのう」といつた。無医村では死んで医者の死亡診断書がもらえず、従つて葬式も出せない。冬は死体をソリに乗せて先の左沢の医者のもとで引つぱつて死で診断書をもらひのだ。四歳の雪ではもちろん馬ソリもスキーモだめ。飢餓縁者七、八人が道を踏みならし、そのあとをこれも七、八人ソリを引いて一日がかりで町までいく。急病人の場合も同様だ。志田さんもソリにつきそつて、何度も病人を町にはこんだ。約束の三年は、まだたく間にすぎた。が、後がわりはいなかつた。山険の部落で苦しんでいる病人たちのことを思つて、「三年つたから」とはいい出せなかつた。莊次郎村長も、そして周子さんも……。

かおこつてくる。里まわりといふのはたぶんやのう」といつた。無医村では死んで医者の死亡診断書がもらえず、従つて葬式も出せない。冬は死体をソリに乗せて先の左沢の医者のもとで引つぱつて死で診断書をもらひのだ。四歳の雪ではもちろん馬ソリもスキーモだめ。飢餓縁者七、八人が道を踏みならし、そのあとをこれも七、八人ソリを引いて一日がかりで町までいく。急病人の場合も同様だ。志田さんもソリにつきそつて、何度も病人を町にはこんだ。約束の三年は、まだたく間にすぎた。が、後がわりはいなかつた。山険の部落で苦しんでいる病人たちのことを思つて、「三年つたから」とはいい出せなかつた。莊次郎村長も、そして周子さんも……。

かおこつてくる。里まわりといふのはたぶんやのう」といつた。無医村では死んで医者の死亡診断書がもらえず、従つて葬式も出せない。冬は死体をソリに乗せて先の左沢の医者のもとで引つぱつて死で診断書をもらひのだ。四歳の雪ではもちろん馬ソリもスキーモだめ。飢餓縁者七、八人が道を踏みならし、そのあとをこれも七、八人ソリを引いて一日がかりで町までいく。急病人の場合も同様だ。志田さんもソリにつきそつて、何度も病人を町にはこんだ。約束の三年は、まだたく間にすぎた。が、後がわりはいなかつた。山険の部落で苦しんでいる病人たちのことを思つて、「三年つたから」とはいい出せなかつた。莊次郎村長も、そして周子さんも……。



茜(あかね)さす空に朝日嶺映ゆる夕べ
共に歌いて由里と歩めり

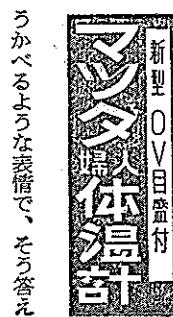
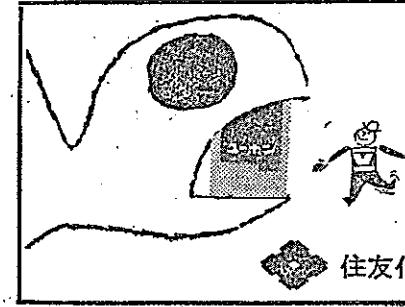
一診療所前で一

終戦直後のことで、當時、父庄次郎氏は村長を退き、佐藤司氏(73)が村長だった。佐藤氏が間立つて、彼女の苦惱を莊次郎氏にとりついだ。莊次郎氏は、「かわいそうな娘。親として、私は娘の意志をしぶることはできない。残された村のことを思うと、暗たんとなるのだが」とつらそうにいった。佐藤村長の氣持も同じだった。また葬式も出せないみじめな村になる、周子さんは青い顔をして「もう少し考え方で。あと一週間だけ」といつた。そして一週間だけ、憔悴した彼女はただ一言、「あきらめますわ」といった。「今まで父に、かれこれいわれたことはない。ただ『世の中で必要な人間になれ』とだけ教えられ

老化を防ぐ3つの鍵…
1. 肝臓機能の強化 2. 血管の補強 3. 整腸・健胃…をとく処方です

人間ドックが生んだ薬
強力 50錠-500円×100錠-900円

住友化学 大阪北浜五



新型 O-V 由里 周子

由里ちゃんへのおみやげは? 木琴を買ってあげようと思いま

す。それから好きなバナナも」「と、いつとき郷里の山河を思ひ、田さんの手で育てられ、すっかり志田さんになつて、終日離れない。志田さんになつて、東京・丸の内の第一生命ホールでのところでご承知通り志田周子さんは、今度「保健文化賞」を受賞した。さる九月十五日、東京・丸の内の第一生命ホールでの受賞式に質素な黒のスーツで出席した志田さんは、カメラマンのまぶしいフラッシュにつつまれた。式をおえて、ただ一言、彼女は「よかつたですわ」といった。それは二十四年間の苦闘の跡をありかえり、「よかつた」といって、いるものと受け取れた。そして記者が「由里ちゃんへのおみやげは? とたずねる」と、「木琴を買ってあげようと思いま

す。それから好きなバナナも」「と、いつとき郷里の山河を思ひ、田さんの手で育てられ、すっかり志田さんになつて、終日離れない。志田さんになつて、東京・丸の内の第一生命ホールでのところでご承知通り志田周子さんは、今度「保健文化賞」を受賞した。さる九月十五日、東京・丸の内の第一生命ホールでの受賞式に質素な黒のスーツで出席した志田さんは、カメラマンのまぶしいフラッシュにつつまれた。式をおえて、ただ一言、彼女は「よかつたですわ」といった。それは二十四年間の苦闘の跡をありかえり、「よかつた」といって、いるものと受け取れた。そして記者が「由里ちゃんへのおみやげは? とたずねる」と、「木琴を買ってあげようと思いま